

1993年3月5日

早稲田大学本庄高等学院 生徒会執行部

先日、お知らせした学院のペットであった“ジョン”はじめ6頭の犬達のが、2月19日読売新聞紙上で、紹介されました。

ジョン達のことは、心配してくれた諸君も多くいたと思いますが、執行部としても、どのようにしたら一番良い解決法になるか、いろいろ思案した結果、新聞に記事として、とり上げてもらえないものかと思いついたのです。

その結果、教務から事務所を通し、読売新聞社の記者に取材にきていただくことになったのです。

そして、右ページのような記事となりました。このように、大きく写真と記事が載るとは思ってもみませんでした。その反響の大きさにはもっと驚きました。19、20日の2日間のうちに、10件以上もの問い合わせがあり、「是非引き取りたい。車でとりに行く」といった申出がつぎつぎとよせられたのですから。

何と嬉しいことでしょう。犬を愛してくれる人がこんなにいるとは…。なかには、「おたくの学校の教育は、素晴らしいですね!」と、いったものまであったそうです。

執行部としては、早速ジョン達を、新しい飼い主に渡すべく、温習日ではありましたが学院に通いました。特に、図書の丸尾さんには、大変に御協力をいただきました。

そして、それぞれに、5匹の犬たちは(残り一匹は、保獲不可…)新しい飼い主のもとに引きとられていきました。

特に、図書の丸尾さんはじめセミナーハウスの職員のみなさん、事務の職員のみなさんの御協力を心から感謝申し上げます。

なお、引き取りたいと云ってこられた方々をここに紹介しておきます。

- | | | |
|-----------|-----------|------|
| 中島様 (西川口) | 早川様 (大宮) | |
| 宮崎様 (鳩山町) | 和久井様 (川口) | |
| 橋本様 (川越) | 竹川様 (西富田) | |
| 久保田様 (岡部) | 高山様 (入間) | |
| 秋葉様 (鴻巣) | 谷田様 (本庄) | 他 5件 |

以上感謝を、こめて報告します。

(文責: 庄司)

だれがワンちゃんもらって

早大本庄高等学院住みかの野犬



早大本庄高等学院の敷地内で引き取り主を待つ犬たち

生徒会が飼い主探し

「捕獲するのはかわいそう」

本庄市の早稲田大学本庄高等学院榎本隆司学院長、生徒七百五十人の生徒会が、学院敷地内に住みついた野良犬六匹の引き取り主を探している。「万一の事故の危険や、衛生問題もある」と、一時は保健所による捕獲も検討されたが「殺すのはかわいそう」との声の高まりで生徒会が引き取り主を探すことになった。

学院側との協議で、最終的な締め切りは、学院入試二次試験予定日の今月二十七日以前の来週いっぱい。それ以前に何とかしなければ、と、生徒会関係者は必死だ。

学院事務所によると、捨て犬、捨て猫が目立ち始めたのは、ここ一年間。約二十五匹にもなり、その都度、教職員や生徒らが引き取るなどして解決してきたが、すでに限界に達しそう。生徒たちが親しみを感じている雌犬ジョンと、ジョンが昨年夏に産んだ子犬三匹、さらに別の黒い犬二匹の計六匹が残されてしまった。

学院の所在地は、本庄市西富田大久保山の雑木林が茂る丘の上。九十枚余りの広大な敷地に、早稲田大学のスポーツ関連施設などとあわせて設置されている。

学院の口元周策事務長は「生き物を大切にする生徒の気持ちは分かる。が、こは散歩など一般の市民も多く出入りする場所。管理上、ほつってはおけない」としている。犬についての問い合わせは同学院(☎0495・21・2400)へ。

だねた格好。生徒会長は二年秋葉丈志君「もはやホームステイが多いなど、生徒側に引き取る手だてがどうしてもない。そこで何とか、大好きな一般の人に引き取ってもらえたら」と訴えている。